

2019年3月期第2四半期 決算説明会

- I 経営概況
- II 2019年3月期第2四半期 決算概要
- III 2019年3月期 業績予想

2018年11月15日

近鉄グループホールディングス株式会社

(証券コード 9041)

<https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/ir/index.html>



あべのハルカス



観光特急「しまかぜ」

I 経営概況



志摩観光ホテル

基本方針	「成長へのシフト」と「財務健全性の確保」との両立
基本戦略	(1) 既存事業の構造改革継続による利益創出力の長期安定化 (2) 事業機会を最大限に活用した収益増大 (3) 事業領域・エリアの拡大による新たな収益源の育成 (4) 持株会社の戦略機能の発揮によるグループシナジーの最大化と財務基盤の一層の充実 (5) 各事業の運営力強化とサービスの質の向上による「ファンづくり」
事業戦略 の 重点テーマ	(1) 「あべのハルカス」の収益基盤強化 (2) インバウンド・観光による収益増大 (3) 不動産事業の強化
計画期間	2015年度 ～ 2018年度（4ヵ年）

2018年度業績予想

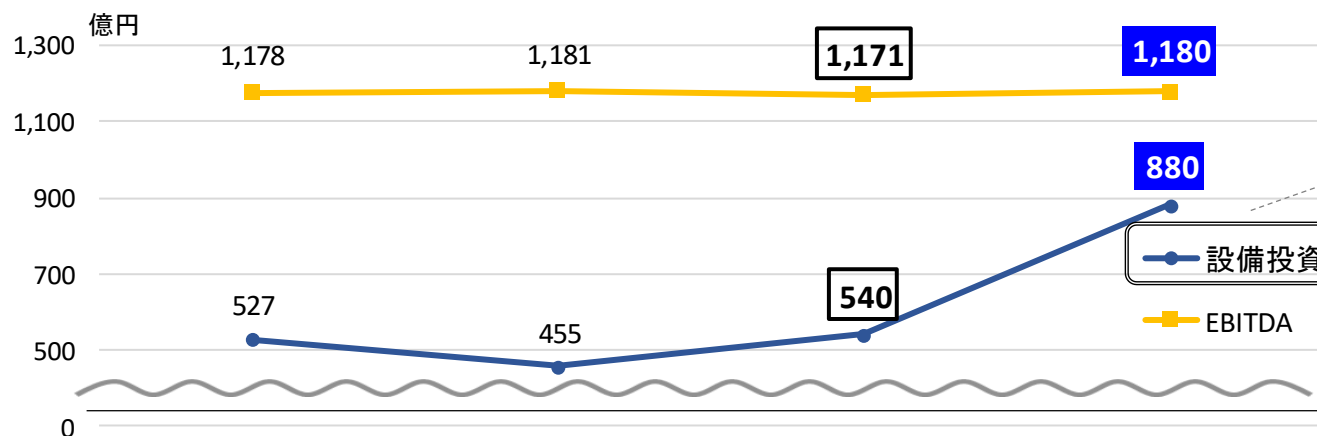
◆ 安定的な利益水準を確保

連結指標	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度			2018年度
	実績	実績	実績	11月公表 予想	5月公表 予想	経営計画 目標値	第2四半期実績 (5月公表予想比)
営業収益	1兆2,179億円	1兆2,048億円	1兆2,227億円	1兆2,380億円	1兆2,400億円	—	6,011億円 (△18億円)
営業利益	647億円	648億円	646億円	640億円	650億円	600億円	337億円 (7億円)
経常利益	611億円	566億円	613億円	620億円	610億円	550億円	336億円 (36億円)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	289億円	262億円	296億円	330億円	320億円	—	214億円 (34億円)
有利子負債 ／EBITDA 倍率	9.6倍	9.3倍	9.2倍	9.2倍	9.1倍	9倍程度	—
R O E	9.0%	7.9%	8.4%	8.7%	8.5%	8%台	—
D／Eレシオ	3.4倍	3.2倍	2.9倍	2.8倍	2.8倍	3倍未満	2.8倍 (—)

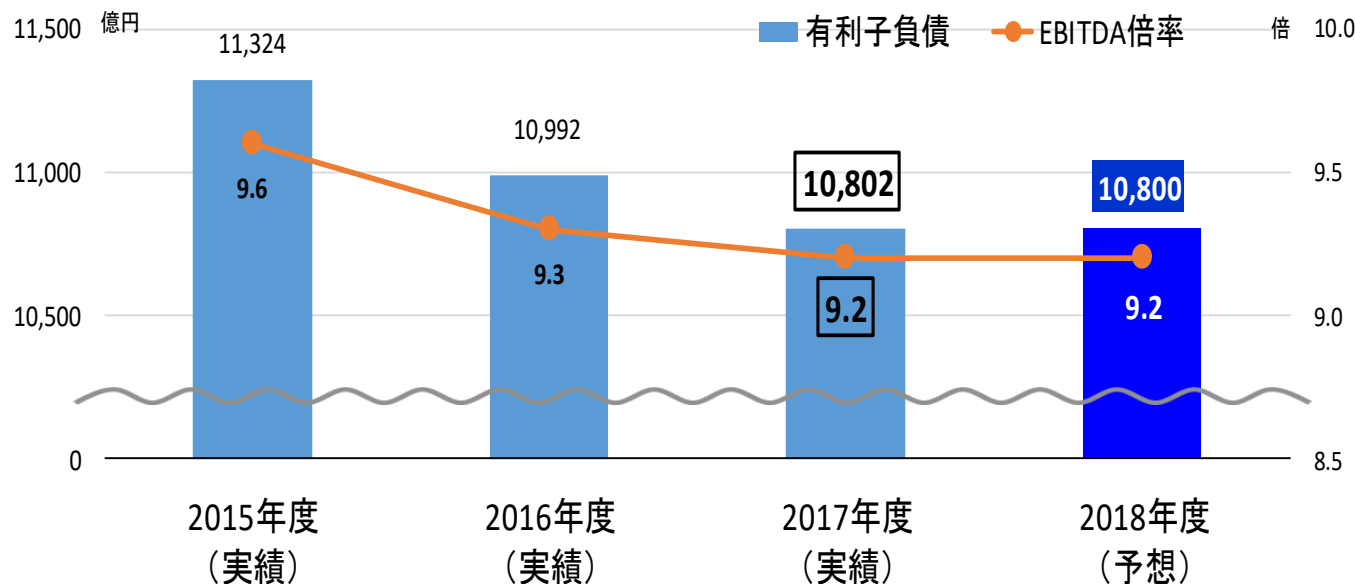
*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

*2 D／Eレシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本

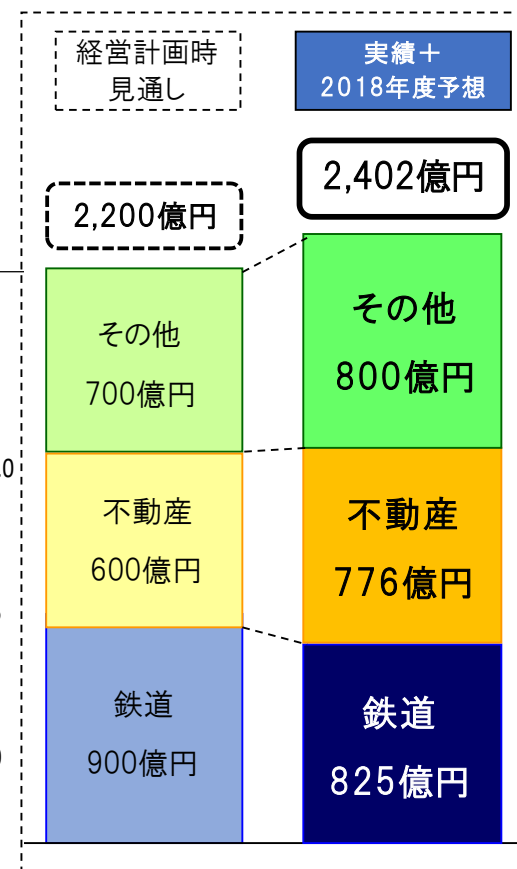
<設備投資額・EBITDA>



<有利子負債と有利子負債EBITDA倍率>



◆2015～2018年度 設備投資額累計



「あべのハルカス」の収益基盤強化①

あべのハルカス各施設の状況

ハルカス300
【58-60F】

2018年度上半期の来館者数は約**2,100万人**に
(対前年約**4%増**)

・本年3月営業開始のアトラクション「エッジ・ザ・ハルカス」等により新規需要を取り込み好調を維持

**大阪マリオット
都ホテル**
【19-20F,38-55F,57F】

・稼働率(86.4%、前年比+0.4pt)、ADR(前年比+2.0%)共に高水準を維持。7割超がFIT中心の外国人宿泊客

・駅直結の立地によりほぼ満室稼働を維持

オフィス
【17-18F,21-36F】

・話題性の高い展示により想定を上回る来館者

**あべのハルカス
美術館**
【16F】

あべのハルカス近鉄本店

上半期(3月~8月)実績

・積極的な売場改善とインバウンド効果により大幅に伸長

	2016年度 上半期	2017年度 上半期	2018年度 上半期
本店単独売上高	472億円	526億円	595億円
免税売上高	12億円	49億円	114億円

**あべのハルカス
近鉄本店**
【B2-14F】

・隣接する「てんしば」も堅調(次ページ参照)

てんしば

あべのハルカス 連結収支

・投資回収年数(当初15年)の早期化も見込める水準に

	2016年度	2017年度	2018年度 通期予想
売上高	1,091億円	1,247億円	1,290億円
営業利益	45億円	67億円	69億円
EBITDA	110億円	132億円	133億円

「あべのハルカス」の収益基盤強化②

あべの・天王寺エリアの魅力向上

てんしばゲートエリアが来年秋開業予定



- ・大阪市から「天王寺公園エントランスエリア魅力創造・管理運営事業」の事業者に選定され、2015年10月より「てんしば」の運営を開始

てんしば



- ・てんしばに隣接した「天王寺動物園ゲートエリア魅力向上事業」の事業者に新たに選定され、来年秋の開業を目指す
- ・てんしばゲートエリアでは、飲食・ボルダリング・アスレチック・グッズショップを設置予定

てんしば開業後の来場者推移

2015年10月 -2016年3月	2016年4月 -2017年3月	2017年4月 -2018年3月
209万人	380万人	420万人

2015年10月1日開業

てんしば開業前の2013年10月からの1年間は、約150万人



インバウンド・観光による収益増大ー1

インバウンド需要による増収効果

関西国際空港は、9月4日から一時期閉鎖になったが、現状では、ほぼ機能は回復し、インバウンドの出足も復調傾向

◆訪日旅客数と関西国際空港外国人旅客数の推移

	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 見通し	2020年度 (イメージ)	2030年度 (イメージ)
訪日外国人旅客数	2,136万人	2,482万人	2,977万人	3,200万人	4,000万人	6,000万人
(指数:2017=100)	(72)	(83)	(100)	(107)	(134)	(202)
関空国際線 外国人旅客数	1,100万人 ※ 532万人	1,242万人 ※ 622万人	1,501万人 ※ 726万人	— ※ 741万人	消費見込み額 8兆円	消費見込み額 15兆円

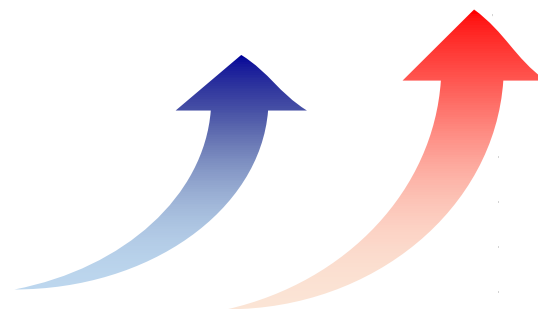
※は、上半期(4-9月)実績、2018年度は速報値

◆当社グループ主要会社の推定インバウンド売上高

鉄道	15億円	20億円	22億円	22億円		
(推定利用者数)	(310万人)	(420万人)	(470万人)	(470万人)		
ホテル	90億円	90億円	105億円	100億円		
百貨店	30億円	30億円	163億円	240億円		
旅行(※販売高)	140億円	180億円	200億円	220億円		
グループ計	約270億円	約320億円	約490億円	約580億円	約700億円	約1,000億円
(指数:2017=100)	(55)	(65)	(100)	(118)	(143)	(204)

◆上記以外グループ施設のインバウンド来館者数推移

海遊館	約33万人	約38万人	約53万人	約68万人
ハルカス300	約7万人	約16万人	約30万人	約33万人



インバウンド・観光による収益増大ー2

引き続き堅調なインバウンド需要

◆関西地区における主なインバウンド関連施設の直近(3か月)の状況

9月4日台風21号
関西国際空港被害

()は対前年比

		8月	9月	10月
百貨店	あべのハルカス近鉄本店免税売上高	(+31%)	(+15%)	(+15%)
ホテル	シェラトン都ホテル大阪稼働率	94.8% (▲0.1pt)	78.3% (▲15.4pt)	93.4% (▲2.2pt)
	大阪マリオット都ホテル稼働率	91.3% (+1.8pt)	72.5% (▲11.7pt)	90.3% (+2.1pt)
	新・都ホテル稼働率	93.9% (▲2.7pt)	92.5% (▲5.4pt)	96.8% (+1.7pt)
水族館	海遊館外国人入館者数	7.8万人 (+46%) 外国人比率21%	3.3万人 (▲6%) 外国人比率16%	5.6万人 (+5%) 外国人比率25%

インバウンド・観光による収益増大ー3

インバウンド誘客継続に向けた施策

インバウンドビジネス競争に勝ち残る 施策の展開

◆グループ各社で既に取り組んでいる施策

グループ連携	・海外エージェントへの積極的な営業の実施 ・台北支社等を拠点にした、東アジア、東南アジア諸国などに加え、ヨーロッパへの営業強化 ・グループ各社合同での海外旅行博出展		
PR体制	・外国語対応HPの整備 ・SNS(フェイスブック等)による海外向け情報発信の実施		
受入態勢整備	運輸(鉄道事業等)	流通(百貨店事業等)	ホテル・レジャー
	・多言語対応 (駅アナウンス、車内自動放送等) ・駅コンシェルジュ配置 ・インターネット特急券英語対応 ・無料Wi-Fiサービス ・企画券のインターネット発売開始	・フォーリンカスタマーズ サロンの拡張 ・電子マネー決済対応売場 の充実 ・多言語フロアガイドの設置	・ハラル認証取得(ホテル) や祈祷室設置(海遊館) などのムスリム対応 ・無料レンタルスマート フォン貸出

◆グループ各社で新たにに取り組んでいる個別の施策

QRコード対応	(チケット) ・入館券eチケット化(ハルカス300、海遊館・ニフレル) ⇒海遊館では本年6月よりインバウンド向けの入館券をeチケット対応し、スマートフォン等でQRコードを表示すると、チケット購入の列に並ばず、直接入館できるため、大変好評を得ている (QRコード決済) ・(百貨店)あべのハルカス近鉄本店や上本町店でのアリペイ・ウィチャットペイの全館対応(レストラン除く) ・(ホテル)外国人利用の多い一部のホテルにおいて、アリペイ対応
より選ばれる 店舗開発	・(百貨店)取引先と協力した選好される売場づくり

インバウンド・観光による収益増大ー4

経営資源である特急サービスの充実・強化

より魅力ある車両を随時導入し、特急料金・運賃の
上昇を図る

2018年10月 観光列車「つどい」で
足湯列車を運行



足湯列車イメージ

2016年9月 観光特急「青の交響曲」
運行開始

シンフォニー
青の交響曲

Blue Symphony



吉野線沿線の観光振興を図る

2013年3月 観光特急「しまかぜ」
運行開始

しまかぜ
Premium Express
SHIMAKAZE



運行開始から5年以上経過も好調を維持

2020
年

2019
年

2018
年

2017
年

2016
年

2015
年

2014
年

2013
年

◆2020年春に新型名阪特急を投入

～くつろぎのアップグレード 名阪特急 次の時代へ～

新型名阪特急イメージ



先頭ハイクレード車両車内イメージ

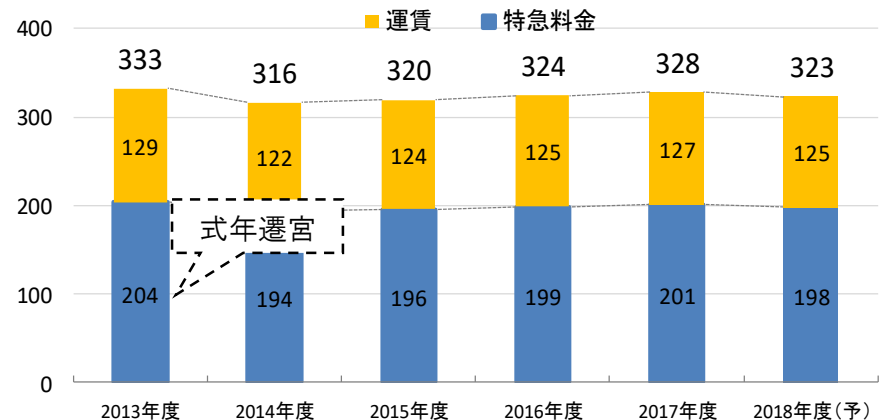
新型名阪特急の概要

- ・運行開始 2020年春(予定)
- ・運行区間 大阪難波～近鉄名古屋
- ・新造車両数 72両(6両×8編成、8両×3編成)
- ・投資額 約184億円

本年10月製造に着手

◆特急料金・運賃(定期外)の推移

収入(億円)



ホテルブランドの新たな構築

新ブランドロゴ



- ・当社グループの各ホテルを、「都ホテル」「都シティ」「都リゾート」の3つのカテゴリーに分類
- ・サービススタイルの違いをお客様にわかりやすく訴求し、今後の新規展開やリニューアルの基準に
- ・2019年4月から新たなブランドロゴやホテル名称を使用

ブランド名	都ホテル 	都シティ 	都リゾート 
ホテルタイプ	都市型フルサービスホテル ・複数のレストラン ・宴会場など地域の様々な需要に応える施設	都市型カジュアルサービスホテル ・宿泊主体型 ・レストラン設置	リゾート型フルサービスホテル ・レストランやバーを設置 ・温泉やプール、スパなど付帯施設の充実
対象ホテル	・ウェスティン都ホテル京都 (2020年春大規模リニューアル) ・シェラトン都ホテル東京 ・シェラトン都ホテル大阪 ・大阪マリオット都ホテル ・都ホテル ロサンゼルス ・都ハイブリッドホテルトーランス・カリフォルニア ・都ホテル 岐阜長良川 ・都ホテル 四日市 ・都ホテル 京都八条 ・都ホテル 尼崎 ・都ホテル 博多 (2019年秋開業予定)	・都シティ 津 ・都シティ 近鉄京都駅 ・都シティ 大阪天王寺 ・都シティ 東京高輪 (2019年2月開業予定) ・都シティ 大阪本町 (2020年春開業予定)	・都リゾート 志摩 ベイサイドテラス ・都リゾート 奥志摩 アクアフォレスト ・志摩観光ホテル

インバウンド・観光による収益増大ー6

ホテル事業の強化

2018年度

2019年度

2020年度
東京オリンピック・
パラリンピック

以降

◎2018年6月～
ウェスティン都ホテル京都大規模リニューアル

◎2020年春
グランドオープン

◎2019年2月
「都シティ 東京高輪」
(高品質宿泊特化型)
【199室】



◎2019年秋
「都ホテル 博多」
(都市型フルサービスホテル)
【208室】



◎2020年春
「都シティ 大阪本町」
(高品質宿泊特化型)
【約300室】



沖縄
リゾートホテル
計画

インバウンドの更なる取り込みに向けた新規出店

インバウンド・観光による収益増大ー7

ウェスティン都ホテル京都 大規模リニューアル

- ・2020年春のグランドオープンを目指し京都を代表する高級ラグジュアリーホテルへ大規模リニューアルを実施
- ・客室単価の大幅上昇を目指す



リニューアル後の全体イメージ

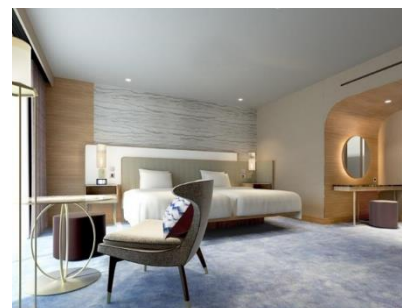
【リニューアル後の施設概要】

- ・延床面積 約74,000㎡
- ・客室数 約270室(現在499室)
- ・投資額 198億円
- ・グランドオープン 2020年春

○主なリニューアル内容

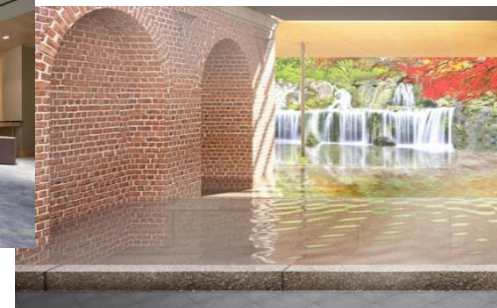
＜客室＞

- ・2室を1室にするなど、平均客室面積を約35㎡から約50㎡へ拡大
- ・全客室の浴室に独立した洗い場を設置。客室数は、499室から約270室へ



東館客室 イメージ

半露天風呂 イメージ



＜スパ施設＞

- ・ホテル敷地内で掘削する温泉を活用した約1,000㎡のスパを新設
- ・庭園と一体となる半露天風呂やスパ施設内にジムを設置

＜レストラン＞

- ・本格的なフランス料理を提供するメインダイニングや、ライブキッチンなどを備え京都市街を一望できるビュッフェレストランを新設



ビュッフェレストラン外観 イメージ

首都圏エリア 新規物件取得状況

- ・2016年1月
「京橋スクエア」取得
- ・2017年4月
「近鉄銀座中央通りビル」
(「TH銀座ビル」より名称変更)
- ・2018年6月
「JESCO新宿御苑ビル」
(東京メトロ「新宿御苑前駅」徒歩1分)



JESCO新宿御苑ビル

関西エリア 自社資産の有効活用

- ・企業立地が進むけいはんな学研都市に、遊休地を活用した社会人向け単身者用賃貸レジデンスを建設
- ・遊休地や建て替え用地において、社会人向け単身者用賃貸レジデンス事業を推進



Sociale 木津川台

< Sociale(ソシヤレ)木津川台概要 >

所在地: 京都府木津川市木津川台一丁目12番地3
(近鉄京都線「木津川台駅」徒歩4分)
総戸数: 120戸 竣工予定: 2019年2月

名古屋エリア 自社資産の有効活用

栄センタービル(賃貸ビル)跡地をタワーマンションに転用

- ・名古屋駅の隣駅「伏見」に、地上21階建のタワーマンションを建設
- ・賃貸住宅フロアと定期借地権付分譲住宅フロアを組み合わせ、賃貸住宅フロアの一部を短期での賃借が可能なサービスアパートメント仕様に
- ・本物件を皮切りに、名古屋エリアにおけるアセット事業を強化



(仮称)ローレルタワー名古屋栄

< (仮称)ローレルタワー名古屋栄概要 >

所在地: 愛知県名古屋市中区栄一丁目722番ほか
(地下鉄東山線・鶴舞線「伏見駅」徒歩4分)
総戸数: 124戸(定借分譲76戸、賃貸48戸)
竣工予定: 2020年12月

コーポレートベンチャーキャピタルの設立(テクノロジーの活用)

コーポレートベンチャーキャピタル(CVC) の設立

○「近鉄ベンチャーパートナーズ株式会社」を
本年8月1日に設立

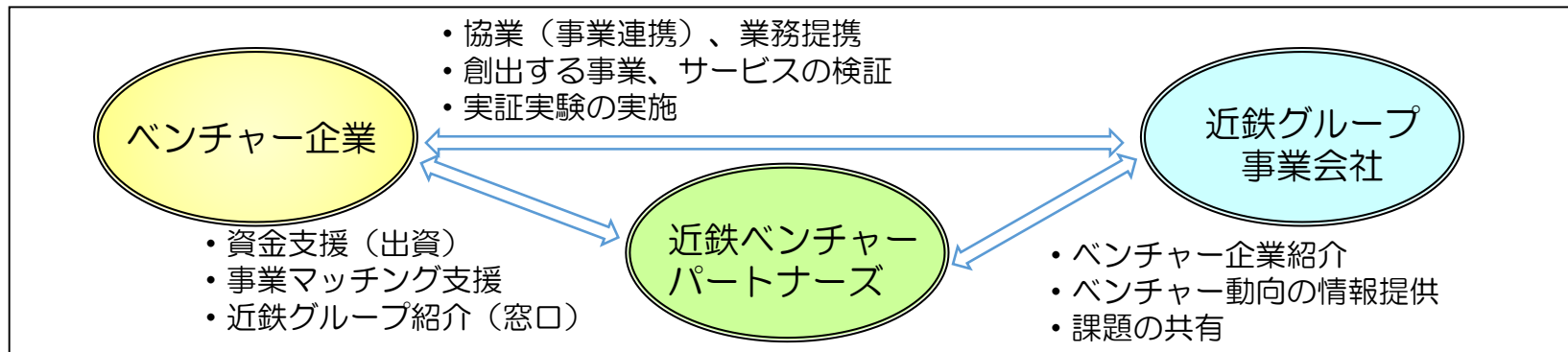
<目的>

ベンチャー企業のテクノロジーや斬新なアイデアと近鉄グループの経営資源を融合することで、グループ各社の事業領域の拡大や、グループの新たな柱となる事業の創出につなげる

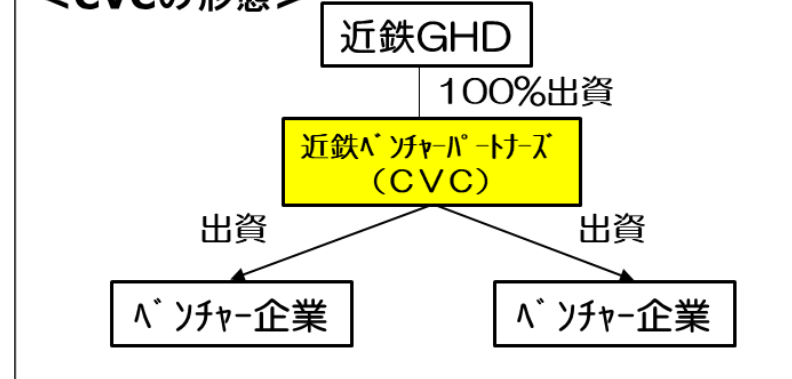
<投資方針>

- ・出資枠は20億円(5年間)、戦略リターンを主眼
- ・出資・協業先は、運輸、旅行・レジャー、流通・飲食、ホテル、不動産、広告・情報サービスなど近鉄グループ事業の全分野を対象

<ベンチャー企業との連携イメージ>



<CVCの形態>



<近鉄GHDの子会社とする狙い>

- ・ベンチャー企業のスピード感に合った出資の機動性
- ・ベンチャー企業との協業意図の社内・社外へのアナウンスメント効果
- ・ベンチャーへの定常的・効果的なソーシング(探索)

仮想地域通貨「近鉄ハルカスコイン」社会実験第2弾

○第2回社会実験の概要

- 目的:「近鉄ハルカスコイン」の本格実施に向けた本番システムでの実証実験
:新たに開発したコインチャージ機の試験運用
:大阪市や大阪商工会議所など地域一体となった取り組み

実験参加者等

- :2018年10月1日から12月10日の間、KIPS会員のうち希望者全員
を対象に、あべのハルカスおよび周辺テナントビル、大阪市立美術館や天王寺動物園、周辺商店会など約400店舗で実験

コイン発行

- :現金チャージ額の10%を期間限定プレミアムとして付与

◆今後の展開

- ・来年度中の本格実施に向け準備を進める
- ・地方自治体・他の企業などとも連携し、地域特性に合わせた仮想地域通貨を展開し、近鉄グループ各事業の強化と、「**新たな沿線活性化モデル**」を構築



(実際のアプリ画面)



テクノロジーを活用した 人材確保と採用コストの削減

◆近鉄おしごとステーション

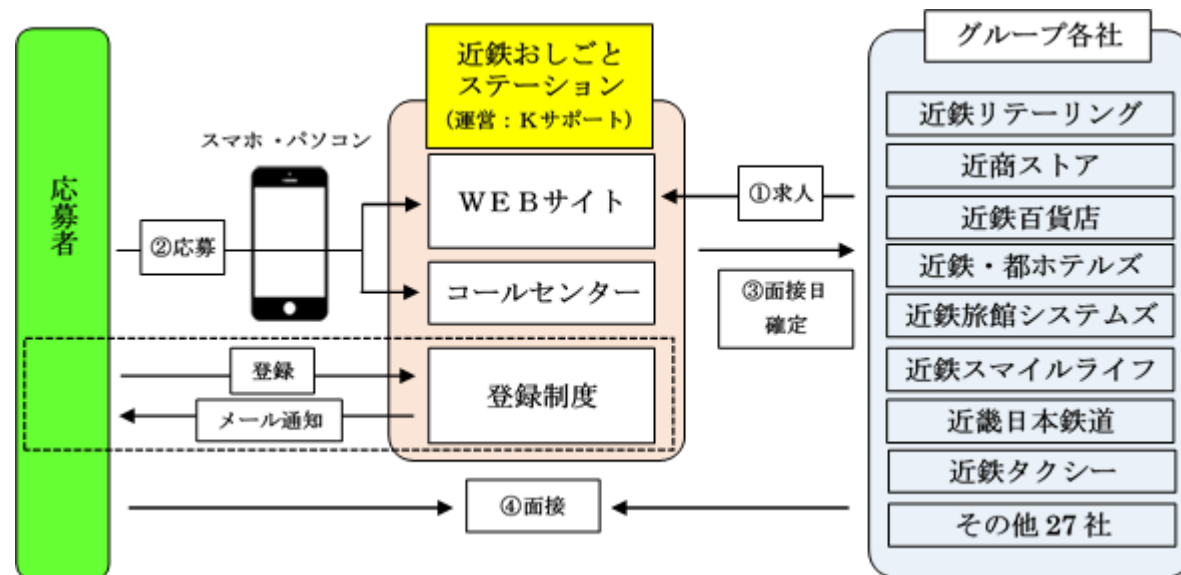
- ・ 昨年3月1日開設
- ・ **スマートフォンを活用**し、希望職種に応じた近鉄グループの求人情報紹介・応募受付をワンストップで提供
- ・ 今後懸念される労働力不足へ対応するとともに採用コスト削減を両立
- ・ 当初8社の参加、現在グループ35社に拡大
- ・ 開設からの累計応募総数は約30,000件、採用者数は6,300名超に

- ・ 本年11月1日よりスマートフォン等を利用した動画面接機能を新たに導入
- ・ スマートフォンの利用率が高い10代・20代からの応募が多い店舗から展開



動画面接機能イメージ

スキーム図



- ・ 成長の原動力となる優秀な人材の「確保」と「定着」を図る

次期経営計画に向けてー1

当社を取り巻く今後のビジネスチャンス

2017年度

2018年度

2019～2022年度

～2027年度

2028年度～

現計画
最終年度

次期経営計画期間（予定）

2017年(暦年)

インバウンド
2869万人

2020年

インバウンド
4000万人

2030年

インバウンド
6000万人

2019年

2020年

2021年

2025年

2033年

主要イベント

G20
大阪サミット

ラグビー
ワールドカップ

東京
オリンピック・
パラリンピック

ワールド・マスターズ
ゲームズ
2021関西

万国博覧会
大阪招致構想計画

統合型リゾート(IR)
大阪・夢洲誘致計画

第63回
伊勢神宮
式年遷宮

2019～21 ゴールデン・スポーツイヤーズ

大規模
インフラ整備

2024年目標

大阪メロ
中央線延伸
(コスモスクエア
～夢洲)

2027年目標

リニア中央
新幹線開業
(品川～名古屋)

2037年目標

リニア中央
新幹線全通
(品川～大阪)

当社グループの持続的成長のための方向性

テクノロジーの進化と活用

「インバウンドの持続的増加と観光産業の活性化」

「ターミナルの機能強化」

「事業構造改革」の実行

- グループ各社の経営改善
(売上の拡大、業務効率化等)
- ビジネスチャンス獲得に必要な投資
余力・財務体質の強化

事業ポ
ートフォリオ
の変革

「新規事業」の創出

- グループの新たな柱となる事業の創出
- テクノロジーを活用した新たなビジネス
- 海外における事業開発の推進

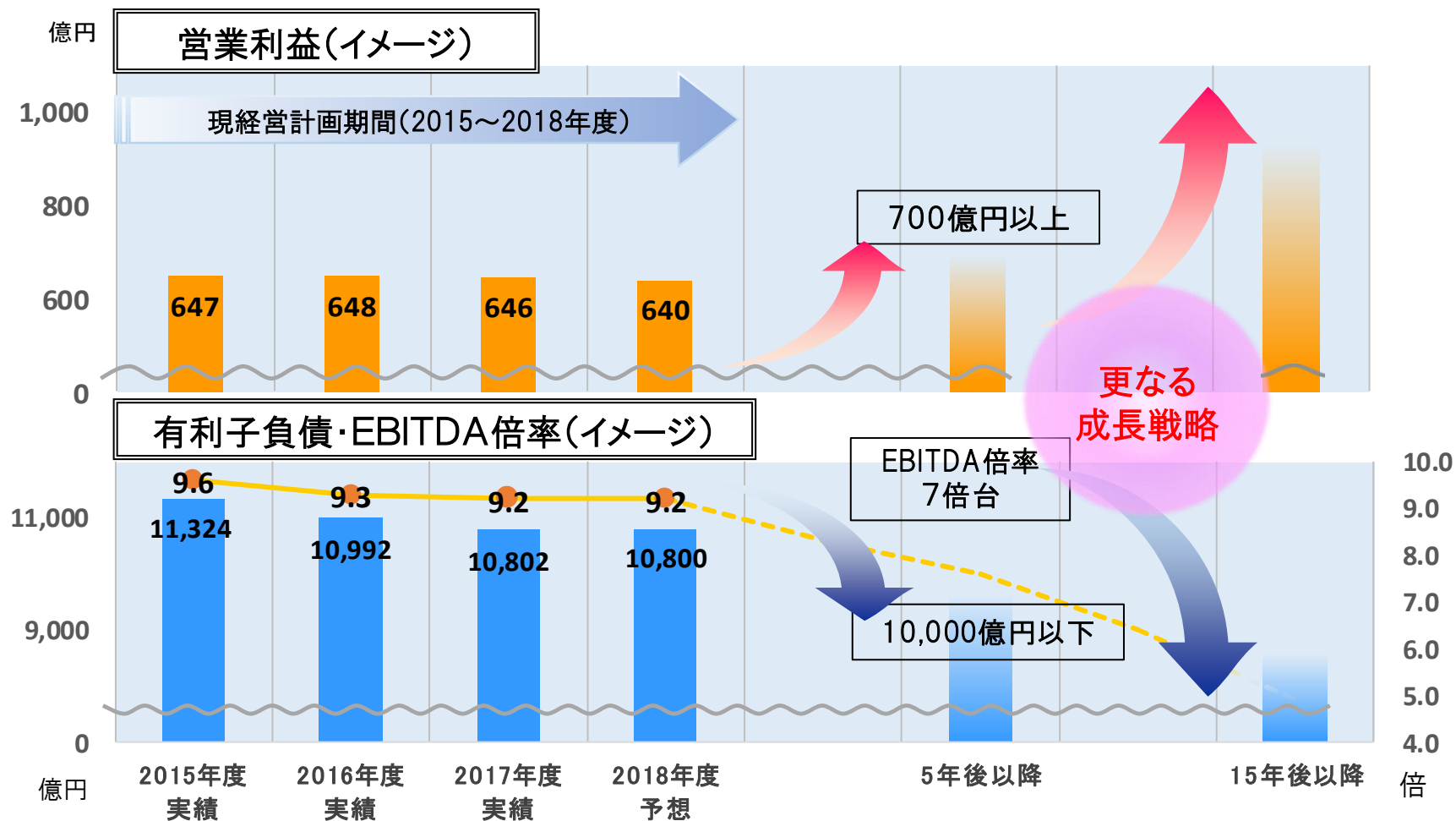
「沿線観光地の活性化」

事業基盤と成長を支える「人材の確保・育成」

次期経営計画に向けてー3

中長期目標(数値イメージ)

- ◆5年後以降は現在の経営環境を踏まえた方向性(※次期経営計画は来春公表予定)
- ◆現在、15年後以降に向け更なる成長戦略を策定中



Ⅱ 2019年3月期第2四半期 決算概要

四半期連結損益計算書

(単位：百万円,%)

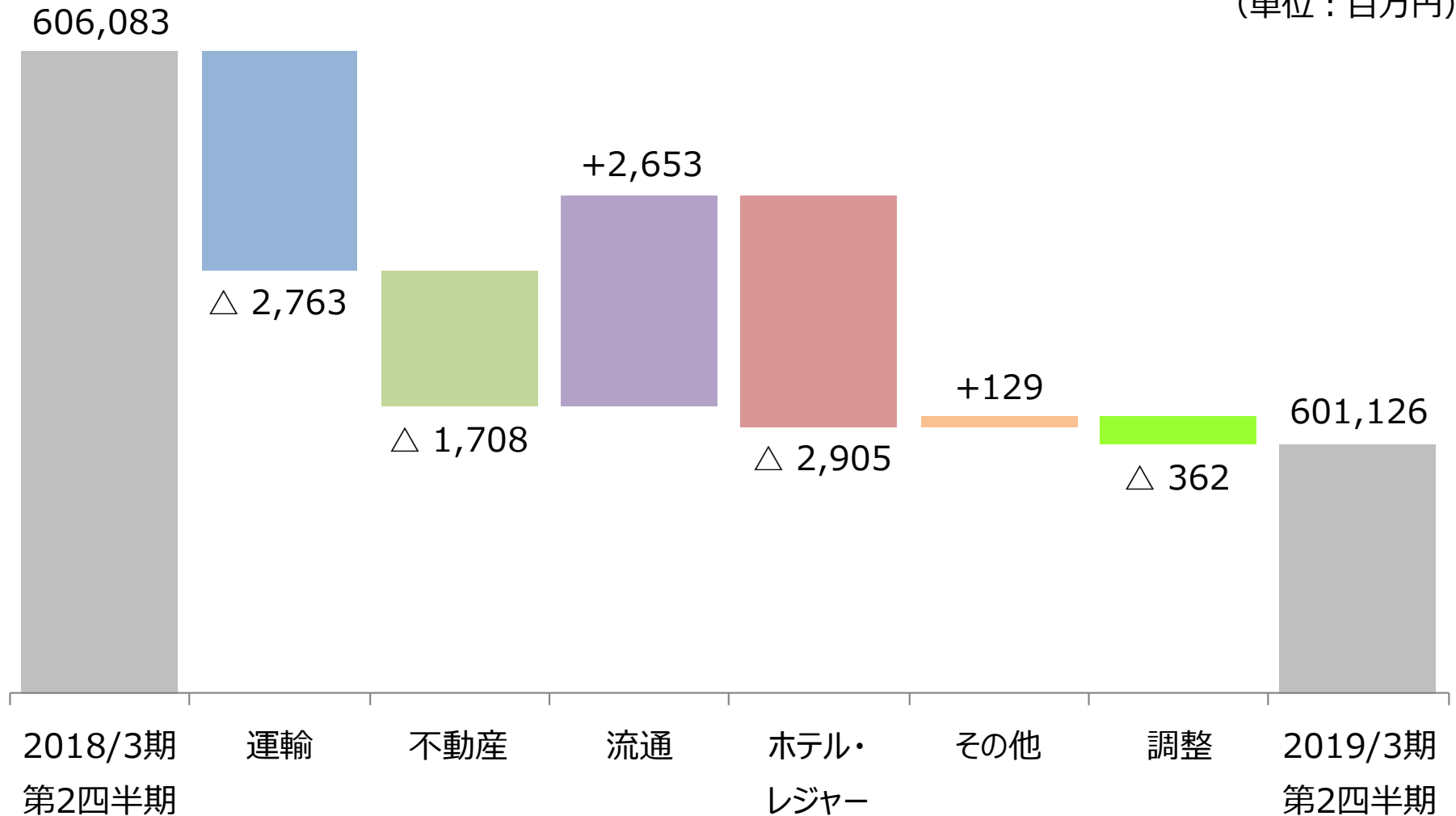
	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 率	増 減 要 因	当初予想 (2018年5月公表)	増 減
営業収益	606,083	601,126	△ 4,957	△ 0.8	「セグメント別業績」参照	603,000	△ 1,873
営業利益	35,616	33,707	△ 1,908	△ 5.4	「セグメント別業績」参照	33,000	707
営業外収益	4,122	5,945	1,822	44.2			
うち持分法による投資利益	2,526	3,922	1,395	55.3			
営業外費用	6,316	5,974	△ 342	△ 5.4			
うち支払利息	4,814	4,364	△ 450	△ 9.4			
経常利益	33,422	33,678	256	0.8		30,000	3,678
特別利益	6,027	6,142	114	1.9	工事負担金等受入額 206		
特別損失	6,959	7,035	75	1.1	工事負担金等圧縮額 205		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18,985	21,467	2,481	13.1		18,000	3,467

連結子会社数 83社（前期末比2社減） 持分法適用会社数 8社（前期末比増減なし）

決算ポイント（営業収益）

流通業で「あべのハルカス近鉄本店」の業績が好調を維持したものの、自然災害等の影響により運輸業、ホテル・レジャー業が減収となったため、連結全体で減収

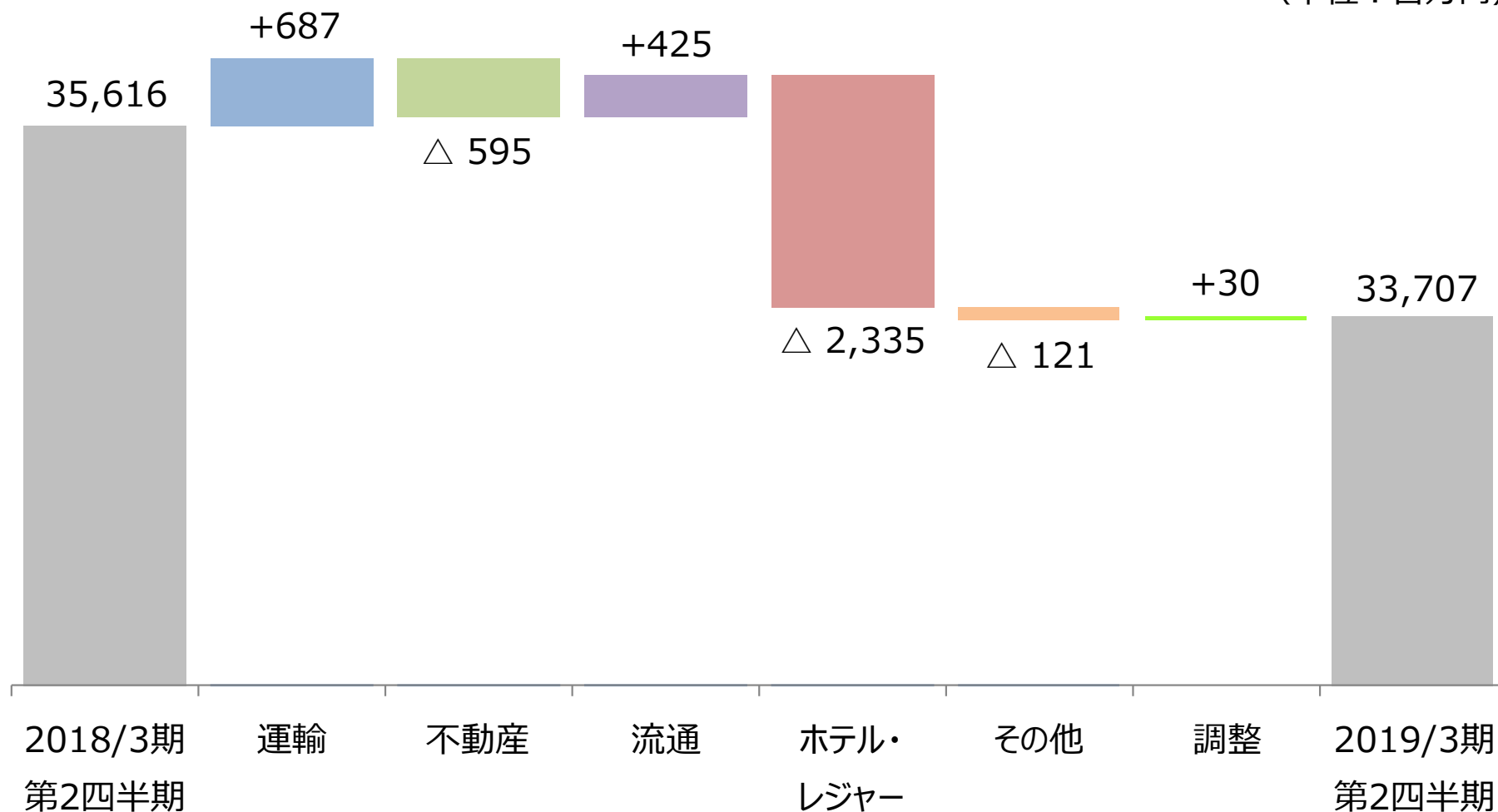
（単位：百万円）



決算ポイント（営業利益）

運輸業が費用の減少により増益であったものの、ホテル・レジャー業における減収の影響が大きく、連結全体では減益

（単位：百万円）



セグメント別業績

(単位：百万円,%)

		2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 率	当初予想 (2018年5月公表)	増 減
運 輸	営業収益	114,400	111,636	△ 2,763	△ 2.4	113,000	△ 1,363
	営業利益	16,195	16,882	687	4.2	17,000	△ 117
不 動 産	営業収益	68,438	66,730	△ 1,708	△ 2.5	66,000	730
	営業利益	8,886	8,290	△ 595	△ 6.7	7,100	1,190
流 通	営業収益	192,594	195,247	2,653	1.4	193,000	2,247
	営業利益	2,903	3,329	425	14.7	3,200	129
ホテル・レジャー	営業収益	245,600	242,695	△ 2,905	△ 1.2	246,000	△ 3,304
	営業利益	6,433	4,098	△ 2,335	△ 36.3	4,900	△ 801
そ の 他	営業収益	7,821	7,951	129	1.7	8,000	△ 48
	営業利益	816	695	△ 121	△ 14.8	600	95
調 整	営業収益	△ 22,772	△ 23,135	△ 362		△ 23,000	△ 135
	営業利益	381	411	30		200	211
連 結	営業収益	606,083	601,126	△ 4,957	△ 0.8	603,000	△ 1,873
	営業利益	35,616	33,707	△ 1,908	△ 5.4	33,000	707

(単位：百万円,%)

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 率
営業収益	114,400	111,636	△ 2,763	△ 2.4
鉄軌道	79,835	77,594	△ 2,240	△ 2.8
バス	17,367	17,361	△ 5	△ 0.0
タクシー	5,745	5,805	59	1.0
鉄道施設整備	8,377	8,332	△ 45	△ 0.5
その他運輸関連	11,571	10,642	△ 929	△ 8.0
調整	△ 8,496	△ 8,099	397	
営業利益	16,195	16,882	687	4.2
(主 な 内 訳)				
鉄軌道	14,418	15,588	1,169	8.1
バス	805	761	△ 44	△ 5.5

《鉄軌道》

- 営業収益は、本年6月に発生した大阪北部地震や、7月から9月にかけて相次いで上陸した台風など自然災害に加え、前年に三重県伊勢市で開催された「第27回全国菓子大博覧会・三重」の反動等により伊勢志摩方面への旅客が前年を下回ったため減収
- 営業利益は、退職給付に係る数理計算上の差異の費用処理額が減少したほか、前年には大阪地区総合指令稼働に伴う除却費を計上していたため増益

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増減率(%)
輸送人員 (千人)	295,513	292,997	△ 2,516	△ 0.9
定期外	118,484	115,837	△ 2,647	△ 2.2
定期	177,029	177,160	131	0.1
営業収益 (百万円)	79,540	77,594	△ 1,946	△ 2.4
旅客収入	75,783	74,287	△ 1,496	△ 2.0
定期外収入	51,471	49,957	△ 1,513	△ 2.9
定期収入	24,312	24,329	17	0.1
運輸雑収等	3,757	3,307	△ 450	△ 12.0
営業利益 (百万円)	14,413	15,588	1,174	8.1

(単位：百万円,%)

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 率
営業収益	68,438	66,730	△ 1,708	△ 2.5
不動産販売	27,838	23,707	△ 4,130	△ 14.8
不動産賃貸	23,512	24,618	1,105	4.7
不動産管理	19,220	20,557	1,337	7.0
調整	△ 2,133	△ 2,153	△ 19	
営業利益	8,886	8,290	△ 595	△ 6.7
(主 な 内 訳)				
不動産販売	1,963	668	△ 1,295	△ 66.0
不動産賃貸	6,429	6,976	547	8.5

《不動産販売》

- ・ 当期のマンションの引き渡しに年度末に集中することもあり、当第2四半期連結累計期間の分譲戸数が減少したため減収減益

《不動産賃貸》

- ・ 主要オフィスビルが堅調に推移したほか、保有資産の売却もあり増収増益

(単位：百万円,%)

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 率
営業収益	192,594	195,247	2,653	1.4
百貨店	135,358	139,275	3,916	2.9
ストア・飲食	57,889	56,671	△ 1,217	△ 2.1
調整	△ 653	△ 699	△ 45	
営業利益	2,903	3,329	425	14.7
(主 な 内 訳) 百貨店	1,833	2,490	656	35.8
ストア・飲食	1,067	838	△ 229	△ 21.5

《百貨店》

- 新規ショップの導入や集客力のある催事の展開に加え、インバウンド需要の増大により「あべのハルカス近鉄本店」の業績が好調を維持したため増収増益

(単位：百万円,%)

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 率
営業収益	245,600	242,695	△ 2,905	△ 1.2
ホテル	29,973	28,507	△ 1,466	△ 4.9
旅行	208,928	207,497	△ 1,430	△ 0.7
映画	1,836	1,760	△ 75	△ 4.1
水族館	4,989	5,016	26	0.5
調整	△ 126	△ 86	40	
営業利益	6,433	4,098	△ 2,335	△ 36.3
(主な内訳)				
ホテル	1,986	886	△ 1,099	△ 55.4
旅行	2,716	1,527	△ 1,189	△ 43.8
水族館	1,589	1,563	△ 26	△ 1.6

《ホテル》

- 「沖縄都ホテル」の売却や「ウェスティン都ホテル京都」の大規模リニューアル工事による一部客室売り止め等により減収減益

《旅行》

- 自然災害等の影響により国内旅行の取り扱いが減少したため減収減益

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 要 因
流動資産	282,328	291,263	8,934	販売土地及び建物 9,612
固定資産	1,628,999	1,626,598	△ 2,400	
資産合計	1,914,480	1,921,000	6,520	
流動負債	559,904	538,884	△ 21,019	短期借入金 △ 30,827 未払法人税等 5,002
固定負債	960,337	974,554	14,216	社債 9,360 長期借入金 6,545
負債合計	1,520,242	1,513,438	△ 6,803	
純資産合計	394,238	407,562	13,323	
うち利益剰余金	75,734	87,249	11,515	純利益 21,467 配当金 △ 9,525 土地再評価差額金取崩 △ 428
うちその他の包括利益累計額	103,581	103,196	△ 385	
負債・純資産合計	1,914,480	1,921,000	6,520	
借入金・社債残高	1,080,230	1,065,228	△ 15,001	
借入金	769,150	744,868	△ 24,281	
社債	311,080	320,360	9,280	

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	59,365	48,475	△ 10,889
うち、売上債権の増減額	1,992	867	△ 1,125
うち、仕入債務の増減額	6,687	507	△ 6,180
うち、その他	16,650	11,548	△ 5,102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 34,445	△ 26,684	7,761
うち、投資有価証券の売却	5	1,238	1,233
うち、固定資産の取得による支出	△ 37,238	△ 33,823	3,414
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 31,499	△ 27,193	4,305
うち、借入金・社債の増減額	△ 18,431	△ 15,224	3,207
現金及び現金同等物の増減額	△ 6,600	△ 5,172	1,428
現金及び現金同等物の期首残高	51,914	52,763	849
現金及び現金同等物の期末残高	45,305	47,529	2,224

(単位：百万円)

	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減	増 減 要 因
設備投資	25,340	22,240	△ 3,100	
運 輸	7,354	9,083	1,729	
（うち鉄軌道）	(5,798)	(7,368)	(1,570)	
不動産	10,867	6,319	△ 4,547	前期「TH銀座ビル」の取得 (現:近鉄銀座中央通りビル)
流 通	3,324	4,563	1,239	
ホテル・レジャー	3,009	1,895	△ 1,113	
その他	721	461	△ 259	
調 整	64	△ 84	△ 148	

減価償却費・EBITDA

(単位：百万円)

		2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	増 減
運 輸	減価償却費	13,387	13,364	△ 23
	EBITDA	29,582	30,246	664
不 動 産	減価償却費	5,692	5,734	41
	EBITDA	14,578	14,025	△ 553
流 通	減価償却費	3,599	3,507	△ 92
	EBITDA	6,502	6,836	333
ホテル・レジャー	減価償却費	2,001	2,133	132
	EBITDA	8,434	6,232	△ 2,202
そ の 他	減価償却費	928	872	△ 55
	EBITDA	1,744	1,567	△ 176
調 整	減価償却費	330	164	△ 165
	EBITDA	712	576	△ 135
連 結	減価償却費	25,939	25,776	△ 162
	EBITDA	61,556	59,484	△ 2,071

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

Ⅲ 2019年3月期 業績予想

連結業績予想

(単位：百万円,%)

	2018/3期 通期実績	2019/3期 通期予想	増 減	増 減 率	当初予想 (2018年5月公表)	増 減
営業収益	1,222,779	1,238,000	15,220	1.2	1,240,000	△ 2,000
営業利益	64,643	64,000	△ 643	△ 1.0	65,000	△ 1,000
経常利益	61,323	62,000	676	1.1	61,000	1,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,614	33,000	3,385	11.4	32,000	1,000
持分法による投資利益	5,976	7,300	1,323	22.1	6,000	1,300
支払利息	9,485	9,000	△ 485	△ 5.1	9,500	△ 500

【主な増減要因】 ※営業収益・営業利益は次ページ以降をご参照ください

〈前年比〉

経常利益	営業利益が減少するものの、持分法による投資利益の増加や支払利息の減少により増益
親会社株主に帰属 する当期純利益	経常利益の増加に加え、減損損失の減少や子会社での事業再編に伴う税負担の軽減もあり増益

〈当初予想比〉

経常利益	営業利益が減少するものの、持分法による投資利益の増加や支払利息の減少により増益
------	---

セグメント別業績

(単位：百万円,%)

		2018/3期 通期実績	2019/3期 通期予想	増 減	増 減 率	当初予想 (2018年5月公表)	増 減
運 輸	営業収益	228,186	224,000	△ 4,186	△ 1.8	225,000	△ 1,000
	営業利益	29,206	30,600	1,393	4.8	31,000	△ 400
不 動 産	営業収益	149,565	167,000	17,434	11.7	168,000	△ 1,000
	営業利益	16,297	18,100	1,802	11.1	18,000	100
流 通	営業収益	395,817	392,000	△ 3,817	△ 1.0	389,000	3,000
	営業利益	7,080	7,500	419	5.9	7,500	0
ホテル・レジャー	営業収益	478,669	484,000	5,330	1.1	487,000	△ 3,000
	営業利益	9,627	5,500	△ 4,127	△ 42.9	6,200	△ 700
そ の 他	営業収益	16,380	17,000	619	3.8	16,000	1,000
	営業利益	1,611	1,500	△ 111	△ 6.9	1,500	0
調 整	営業収益	△ 45,840	△ 46,000	△ 159		△ 45,000	△ 1,000
	営業利益	818	800	△ 18		800	0
連 結	営業収益	1,222,779	1,238,000	15,220	1.2	1,240,000	△ 2,000
	営業利益	64,643	64,000	△ 643	△ 1.0	65,000	△ 1,000

主な増減要因（前年比）

「運 輸」

- ・ 営業収益は、鉄軌道部門で、養老鉄道の連結除外に加え、地震、台風など自然災害や伊勢志摩方面での大型イベントの反動もあり減収
- ・ 営業利益は、鉄軌道部門での退職給付に係る数理計算上の差異の費用処理額や修繕費の減少等により増益を予想

「不動産」

- ・ 不動産販売部門で、マンション販売戸数が増加するほか、不動産賃貸部門でも、主要賃貸物件の賃料が堅調に推移する見込みであるため、増収増益を予想

「流 通」

- ・ 営業収益は、百貨店部門で、「あべのハルカス近鉄本店」は好調を維持する見込みであるが、郊外店における売場改革の一環としての専門店化の推進等により減収となるほか、ストア・飲食部門で店舗閉鎖等もあり減収
- ・ 営業利益は、百貨店部門で売場改革や固定費の削減等により増益を予想

「ホテル・レジャー」

- ・ 営業収益は、ホテル部門で、「沖縄都ホテル」の売却や「ウェスティン都ホテル京都」の大規模リニューアル工事による客室の一部売り止めがあるものの、旅行部門で、クラブツーリズムや近畿日本ツーリストの団体旅行部門での回復を見込み、ホテル・レジャー業全体では増収を予想
- ・ 営業利益は、ホテル部門における改装費用や新規ホテルの開業費用増加に加え、旅行部門でのシステム関連費用の増加を見込み、減益を予想

主な増減要因（当初予想比）

《運 輸》

- ・ 営業収益は、鉄軌道部門での地震、台風など自然災害の影響等により減収
- ・ 営業利益は、鉄軌道部門で電力料金の引下げなどコストの減少があるも、バス部門における燃料費の増加等もあり減益予想

《不動産》

- ・ 営業収益は、不動産販売部門でマンション販売計画の見直しにより減収見込みであるが、利益率の向上により営業利益は概ね当初並みを予想

《流 通》

- ・ 営業収益は、近鉄百貨店「あべのハルカス近鉄本店」の堅調な業績推移を反映し増収見込みであるが、営業利益は、ストア飲食部門で人件費の増加等を織り込み、全体では当初並み

《ホテル・レジャー》

- ・ ホテル部門や旅行部門で、度重なる自然災害の影響に加え、新規ホテル開業のずれ込み等もあり、減収減益を予想

	2018/3期 通期実績	2019/3期 通期予想	増 減	増減率(%)	当初予想 (2018年5月公表)	増 減
輸送人員 (千人)	578,375	575,032	△ 3,343	△ 0.6	577,234	△ 2,202
定期外	236,583	233,511	△ 3,072	△ 1.3	236,574	△ 3,063
定期	341,792	341,521	△ 271	△ 0.1	340,660	861
営業収益 (百万円)	157,330	155,000	△ 2,330	△ 1.5	156,700	△ 1,700
旅客収入	149,912	148,151	△ 1,761	△ 1.2	150,015	△ 1,864
定期外収入	102,376	100,689	△ 1,686	△ 1.6	102,588	△ 1,899
定期収入	47,536	47,461	△ 74	△ 0.2	47,427	34
運輸雑収等	7,417	6,848	△ 569	△ 7.7	6,684	164
営業利益 (百万円)	26,180	27,500	1,319	5.0	27,500	0

設備投資 借入金・社債残高

(単位：百万円,倍)

	2018/3期 通期実績	2019/3期 通期予想	増 減	当初予想 (2018年5月公表)	増 減	増減要因 (対前年)
設備投資	54,057	88,000	33,942	92,000	△ 4,000	
運 輸	24,868	30,000	5,131	30,000	0	
(うち鉄軌道)	(21,282)	(24,000)	(2,717)	(24,000)	0	
不動産	15,583	37,000	21,416	38,000	△ 1,000	「近鉄博多ビル(仮称)」建設 「都シティ 東京高輪」新規開業 「ウェスティン都ホテル京都」大規模リニューアル
流 通	6,038	9,000	2,961	11,000	△ 2,000	
ホテル・レジャー	5,526	9,700	4,173	10,700	△ 1,000	「都シティ 東京高輪」新規開業(ホテル) WEB販売システム構築(旅行)
その他	1,612	1,500	△ 112	1,500	0	
調 整	427	800	372	800	0	
借入金・社債残高	1,080,230	1,080,000	△ 230	1,080,000	0	
EBITDA	117,182	118,000	817	119,000	△ 1,000	
借入金・社債 / EBITDA	9.2	9.2	0.0	9.1	0.1	

減価償却費・EBITDA

(単位：百万円)

		2018/3期 通期実績	2019/3期 通期予想	増 減
運 輸	減価償却費	27,263	28,000	736
	EBITDA	56,469	58,600	2,130
不 動 産	減価償却費	11,429	12,000	570
	EBITDA	27,727	30,100	2,372
流 通	減価償却費	7,165	7,000	△ 165
	EBITDA	14,246	14,500	253
ホテル・レジャー	減価償却費	4,168	4,500	331
	EBITDA	13,796	10,000	△ 3,796
そ の 他	減価償却費	1,836	2,000	163
	EBITDA	3,448	3,500	51
調 整	減価償却費	674	500	△ 174
	EBITDA	1,492	1,300	△ 192
連 結	減価償却費	52,538	54,000	1,461
	EBITDA	117,182	118,000	817

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

お問合せ先

経理部

Tel : 06-6775-3465

Fax : 06-6775-3691

Mail : ir-info@rw.kintetsu.co.jp